Ⅳ-8 沖縄

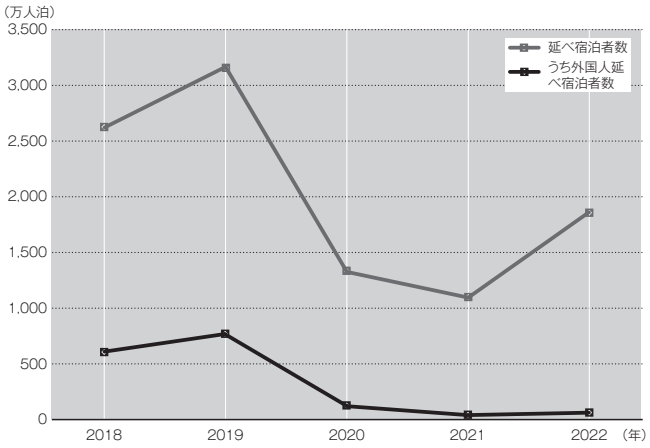
2022年の入域観光客数は569.8万人
国内県外客・外客とも2年ぶりの増加に転じる
宿泊施設の開業は継続、稼働率は前年から改善

(1)都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2022年1月から12月の沖縄県の延べ宿泊者数は1,823万人泊であった。 前年比58.9%の増加であり、コロナ禍直前の2019年実績の約6割の値となった。

このうち外国人の延べ宿泊数は58万人泊であった。前年比145.5%の増加であり、2019年実績の1割未満の値となった(図Ⅳ-8-1)。

図Ⅳ-8-1　延べ宿泊者数の推移(沖縄)



(単位：万人泊)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
延べ宿泊者数	2,679	3,287	1,379	1,147	1,823
うち、外国人延べ宿泊者数	620	775	107	24	58

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

沖縄県の推計による2021年の観光客一人当たり観光消費額(総額)は9万4,000円であり、前年から1万5千円程度の増加となった。2017年以降、一人当たり観光消費額は7万3千円台で推移していたが、2020年には前年から5千円程度増加し、2021年においても増加トレンドが維持された(図Ⅳ-8-2左軸)。

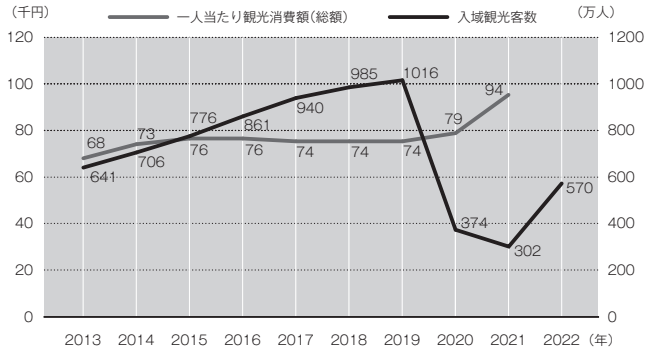
2022年の「入域観光客数(含ビジネス客)」は569万8千人であった。前年比88.9%の増加であり、2019年実績の約6割の値となった(図Ⅳ-8-2右軸)。

2022年の入域観光客のうち、国内客数は565万人、外国人客数は4万8千人、外国人客の占める割合は0.8%であった。国内客数は前年比87.3%の増加となり、2019年実績の約8割まで回復が見られた。一方で外国人客数は前年から若干の増加が見られたものの、値は2019年実績の1割未満に留まった(図Ⅳ-8-3)。

離島の動向を見ると、沖縄県八重山事務所が公表する2022年の八重山地域の入域観光客数は91万8千人であった。前年比66.2%の増加であり、2019年実績の約6割の値となった。また、宮古島市が公表する2022年の宮古島の観光客数は66万1千人であった。前年比62.5%の増加であり、2019年実績の約6割の値となった(図Ⅳ-8-4)。

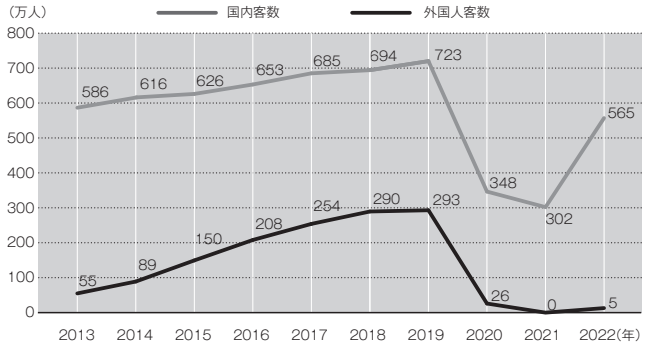
沖縄県全体の入域観光客数の推移と比較すると、八重山地域及び宮古島の入域観光客数の前年からの増加率は、県全体の値をやや下回った。

図Ⅳ-8-2　入域観光客数と一人当たり観光消費額の推移



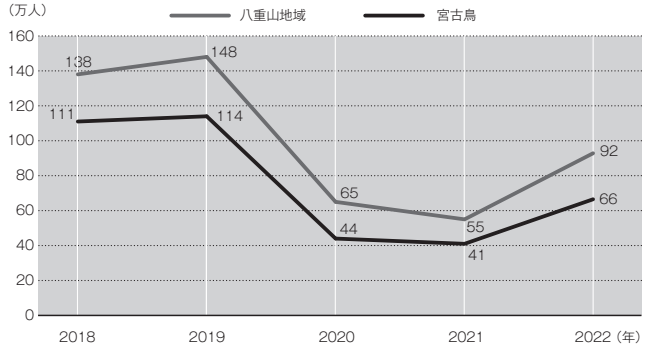
資料：沖縄県「観光統計実態調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図Ⅳ-8-3　国内客数(県外)と外国人客数の推移



資料：沖縄県「入域観光客統計概況」をもとに(公財)日本交通公社作成

図Ⅳ-8-4　八重山地域及び宮古島の入域観光客数の推移



資料：沖縄県「八重山入域観光客数統計概況」及び
宮古島市「宮古島市の入域観光客数」をもとに(公財)日本交通公社作成

(2)観光地の主な動向

●国際線の状況

2022年1月末日時点で、那覇空港、新石垣空港及び下地島空港のいずれにおいても、国際線は全便運休であった。2018年以降の週当たり便数の推移を、図Ⅳ-8-5に示す。

2022年3月、観光以外を目的とする外国人の新規入国が再開された。以降、一日当たりの入国者数上限の段階的な引き上げ等の措置と並行して、同年6月には条件付きで外国人観光客の受け入れが再開され、10月には個人旅行の解禁を含む大幅な緩和がなされた。これらの措置に伴って、県内空港に発着する国際線の再開が進展した。

那覇空港については、2020年6月に外国人の受け入れに係る検疫体制の基準を満たす国際線の発着空港として指定された。2022年夏季以降、中国本土、香港、台湾、韓国等のアジア圏を中心に、国際線の定期運航が再開されている。

●宿泊施設の開業

2022年から2023年前半にかけてオープンした、沖縄県内の主な宿泊施設(名称変更等によるリニューアルオープンを含む)を、表Ⅳ-8-1に示す。期間を通じて沖縄本島、離島地域それぞれで複数の宿泊施設が開業し、2021年に引き続き、各地域における施設数及び収容人数の継続的な増加が見られた。

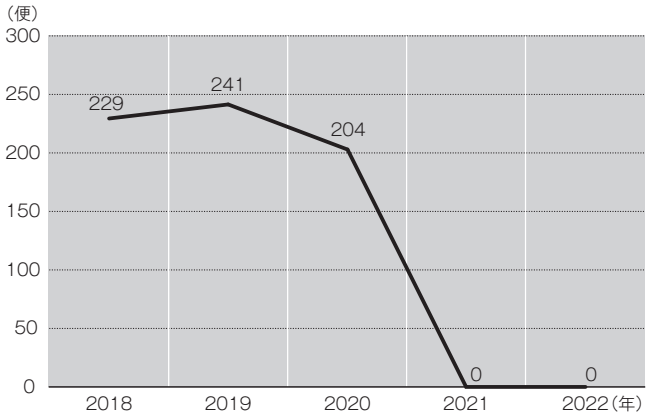
那覇市では2022年夏季までに、「HOTEL SANSUI NAHA」(2022年2月)、「ホテルリソルトリニティ那覇」(同4月)、「アパホテル〈那覇若狭大通〉」(同4月)、「レンブラントスタイル那覇」(同4月)、「ホテル・アンドルームス那覇ポート」(同6月)等、室数が100を超える大型施設を中心に複数の開業が見られた。同年8月以降も、「ホテルグランコンソルト那覇(同9月)」、「プリンススマートイン那覇(同11月)」、「Southwest Grand Hotel(2023年6月)」等、継続的な新規開業が見られた。

恩納村では「AQUASENSE Hotel & Resort」(2022年4月)、「Homm Stay Yumiha Okinawa」(同7月)、「ザ・ムーンビーチミュージアムリゾート」(2023年4月)等、室数規模の異なる複数の施設の開業が見られた。2022年7月には星野リゾートによる県内5か所目の施設として、「星野リゾート BEB5沖縄瀬良垣」が開業した。

沖縄本島のその他市町村においては、宜野湾市では「沖縄プリンスホテル オーシャンビューぎのわん」(2022年4月)、糸満市では「琉球ホテル&リゾート 名城ビーチ」(同7月)、浦添市では「HOTEL Ala COOJU OKINAWA」(同12月)、名護市では「New Normal Hotel in NAGO」(2023年3月)、うるま市では「タップホスピタリティラボ 沖縄」(同6月)が、それぞれ開業した。「タップホスピタリティラボ 沖縄」は、情報通信関連産業の拠点である「沖縄IT津梁パーク」内に設けられた施設であり、宿泊の提供だけでなく、観光・宿泊産業の生産性向上を企図したDX実証実験施設としての運用が予定されている。

離島地域においては、宮古島市で「ウォーターマークホテル& リゾーツ沖縄 宮古島」(2022年8月)、「グランテックリゾートヘブン」(2023年3月)、「ヒルトン沖縄宮古島リゾート」(同6月)が開業し、市全体としての提供室数は大きく増加した。竹富町では「リゾートイン西表島」(同2月)が開業した。

図Ⅳ-8-5　那覇空港、新石垣空港、下地島空港における国際線(直行便)の週当たり便数の推移



※2019年以前は6月1日時点の便数、2020年以降は1月末日時点の便数
資料:沖縄県「観光要覧」をもとに(公財)日本交通公社作成

表Ⅳ-8-1　2022年から2023年前半にかけて開業した主な宿泊施設

年月		宿泊施設名	所在地	室数
2022年	2月	HOTEL SANSUI NAHA	那覇市	278室
	3月	ネストホテル那覇西	那覇市	143室
	3月	CABIN & HOTEL CONSTANT NAHA	那覇市	109室
	4月	ホテルリソルトリニティ那覇	那覇市	220室
	4月	沖縄プリンスホテル オーシャンビューぎのわん	宜野湾市	340室
	4月	AQUASENSE Hotel & Resort	恩納村	77室
	4月	アパホテル〈那覇若狭大通〉(旧那覇クリスタルホテル)	那覇市	105室
	4月	レンブラントスタイル那覇	那覇市	146室
	4月	NAHA新都心HOTEL	那覇市	47室
	6月	ホテル・アンドルームス那覇ポート	那覇市	236室
	7月	琉球ホテル&リゾート 名城ビーチ	糸満市	443室
	7月	星野リゾート BEB5沖縄瀬良垣	恩納村	105室
	7月	Homm Stay Yumiha Okinawa	恩納村	17室
	8月	ウォーターマークホテル & リゾーツ沖縄 宮古島	宮古島市	50室
	8月	KOHALA HOTEL	那覇市	28室
	9月	ホテルグランコンソルト那覇	那覇市	151室
	11月	プリンス スマート イン 那覇	那覇市	149室
	12月	HOTEL Ala COOJU OKINAWA	浦添市	120室
2023年	2月	リゾートイン西表島	竹富町	20室
	3月	New Normal Hotel in NAGO	名護市	28室
	3月	グランテックリゾートヘブン	宮古島市	30室
	4月	ザ・ムーンビーチ ミュージアムリゾート (旧ホテルムーンビーチ)	恩納村	255室
	6月	Southwest Grand Hotel	那覇市	86室
	6月	ヒルトン沖縄宮古島リゾート	宮古島市	329室
	6月	タップホスピタリティラボ 沖縄	うるま市	38室

資料:新聞記事・ウェブサイト等、公開情報をもとに(公財)日本交通公社作成

●観光関連施設の開業

2022年から2023年前半にかけてオープンした、沖縄県内の主な観光関連施設(商業施設、アミューズメント施設等)を、表Ⅳ-8-2に示す。

「瀬長島ウミカジテラス」は、2015年に開業した瀬長島(豊見城市瀬長)の複合施設であり、テラス内の飲食、物販、体験型施設のほか、近隣には海浜公園、展望台、宿泊・温浴施設等を備える。2022年7月のリニューアルオープンに合わせて、新規店舗の出店やフォトスポットの整備等がなされた。

「第一牧志公設市場」は、1950年に開設された牧志公設市場を源流とする、那覇市市営の市場である。主に精肉、鮮魚、生鮮食品等を扱い、周辺地域の事業者や市民による利用のほか、観光客の来訪も多数見られる。施設建て替えのため、2019年に従来の市場を閉鎖し、仮設市場へ移行していた。施設工事の完了に伴って旧市場の立地へ戻り、2023年3月にリニューアルオープンとなった。

●第7回世界のウチナーンチュ大会の開催

2022年10月30日から11月3日にかけて、「世界のウチナーンチュ大会」が開催された。沖縄セルラースタジアム那覇(開会式、はいさいステージ、閉会式、グランドフィナーレ等)、国際通り(前夜祭パレード)のほか、県内各地で文化交流事業、観光案内等が行われた。

世界のウチナーンチュ大会は、世界各国に暮らすウチナーンチュ(沖縄県系人)と沖縄県民の交流促進等を目的として、1990年に第1回が開催された。以降、おおよそ5年ごとに大会が開催されてきた。第7回大会は当初2021年の開催が予定されていたがコロナ禍により延期され、本土復帰50周年となる2022年に開催された。

●県内宿泊施設の容量及び稼働率の推移

本土復帰した1972年から2021年までの沖縄県内の宿泊施設(ホテル・旅館)の軒数の推移を図Ⅳ-8-6に、収容人数の推移を図Ⅳ-8-7に、それぞれ示す。宿泊施設の軒数及び収容人数は、施設規模の大小を問わず継続的に増加している。コロナ禍により旅行動態への大きな影響が生じた2020年から2021年にかけても増加の傾向は同様であり、宿泊旅行の基盤となる施設数や収容人数の減数は見られなかった。

沖縄県内の宿泊施設タイプ別の定員稼働率について、2022年及び2019年における各月の値、ならびに2022年各月の値の前年同月からの増減を、図Ⅳ-8-8に示す。2022年の月別稼働率は年初を除いて良化の傾向を示しており、一部の施設タイプでは2019年同月の実績を上回る月も見られる。一方で、全体として2022年の稼働率はコロナ禍以前の水準に達しているとはいえず、とりわけビジネスホテルとシティホテルにおいて両年の稼働率の差が大きい。

県内の宿泊施設数・収容人数が継続的に拡大する中で、稼働率の回復には2019年水準を超える宿泊者数の確保が求められる状況が、今後も続くことが想定される。

(那須 將)

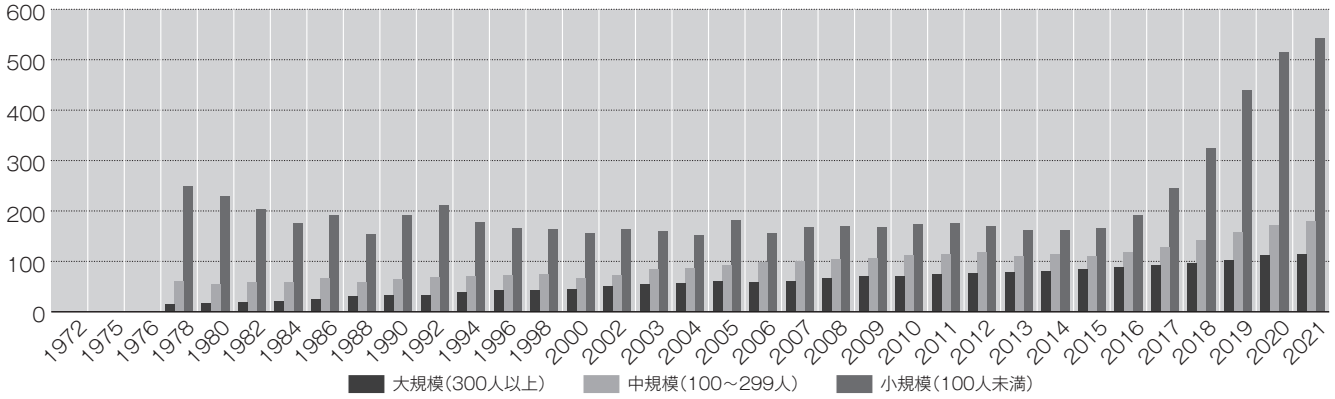
表Ⅳ-8-2 2022年から2023年前半にかけて開業した主な観光関連施設

年月	施設名	所在地	概要
2022年 6月	宮古島シティ	宮古島市	延床面積11,912㎡、14のテナントが入る大型ショッピングモール。建築費高騰等の影響を受け計画当初より縮小されたが、市内最大級の規模となる。
7月	タウンプラザかねひで なご湾市場	名護市	延床面積2,313㎡、食品スーパーを中心に、ドラッグストア等複数店舗が出店する商業施設。
7月	瀬長島ウミカジテラス(リニューアル)	豊見城市	瀬長島西海岸周辺に展開するリゾート施設。2015年に開業し、2021年からリニューアルを実施。飲食、美容、雑貨等の新店舗や、新スポットがオープン。
2023年 3月	第一牧志公設市場	那覇市	施設建替のため、2019年に旧市場を閉鎖し仮設市場へ移行、2023年に旧市場の立地へ戻り、リニューアルオープン。1階で購入した食材を2階の飲食店で調理・提供する「持ち上げ」等を楽しめる。
5月	名護博物館	名護市	名護・やんばるの自然と文化拠点施設として、2020年より旧博物館を休館し、名護市大中に新館を建築。本館ではザトウクジラの骨格標本を常設展示するほか、「くらしの実践・体験エリア」でのワークショップ、「自然と人との共生エリア」での自然観察等を提供。
7月	SKY GARDEN “TOP TREE okinawa”	那覇市	国際通り沿いの商業施設最上階に、食と音楽、エンターテインメントを融合したフードホールとして開業。ふたつのエリアに計7店の飲食店が出店。時間帯に応じてフードホールスタイルとミュージックバースタイルを変更し、異なるサービスを提供。

資料:新聞記事・ウェブサイト等、公開情報をもとに(公財)日本交通公社作成

図Ⅳ-8-6　沖縄県内のホテル・旅館の軒数推移

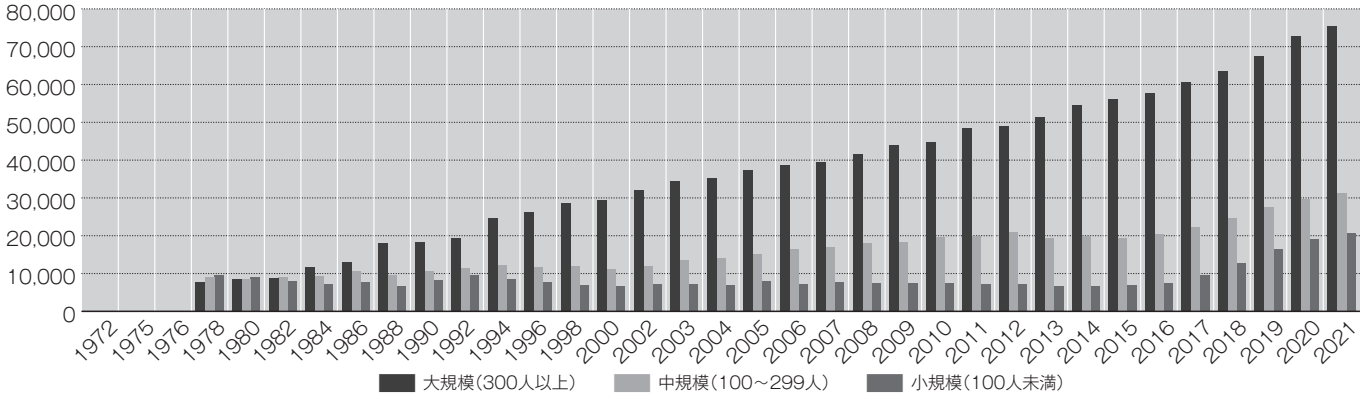
（単位：軒）



資料：沖縄県「観光要覧」をもとに（公財）日本交通公社作成

図Ⅳ-8-7　沖縄県内のホテル・旅館の収容人数推移

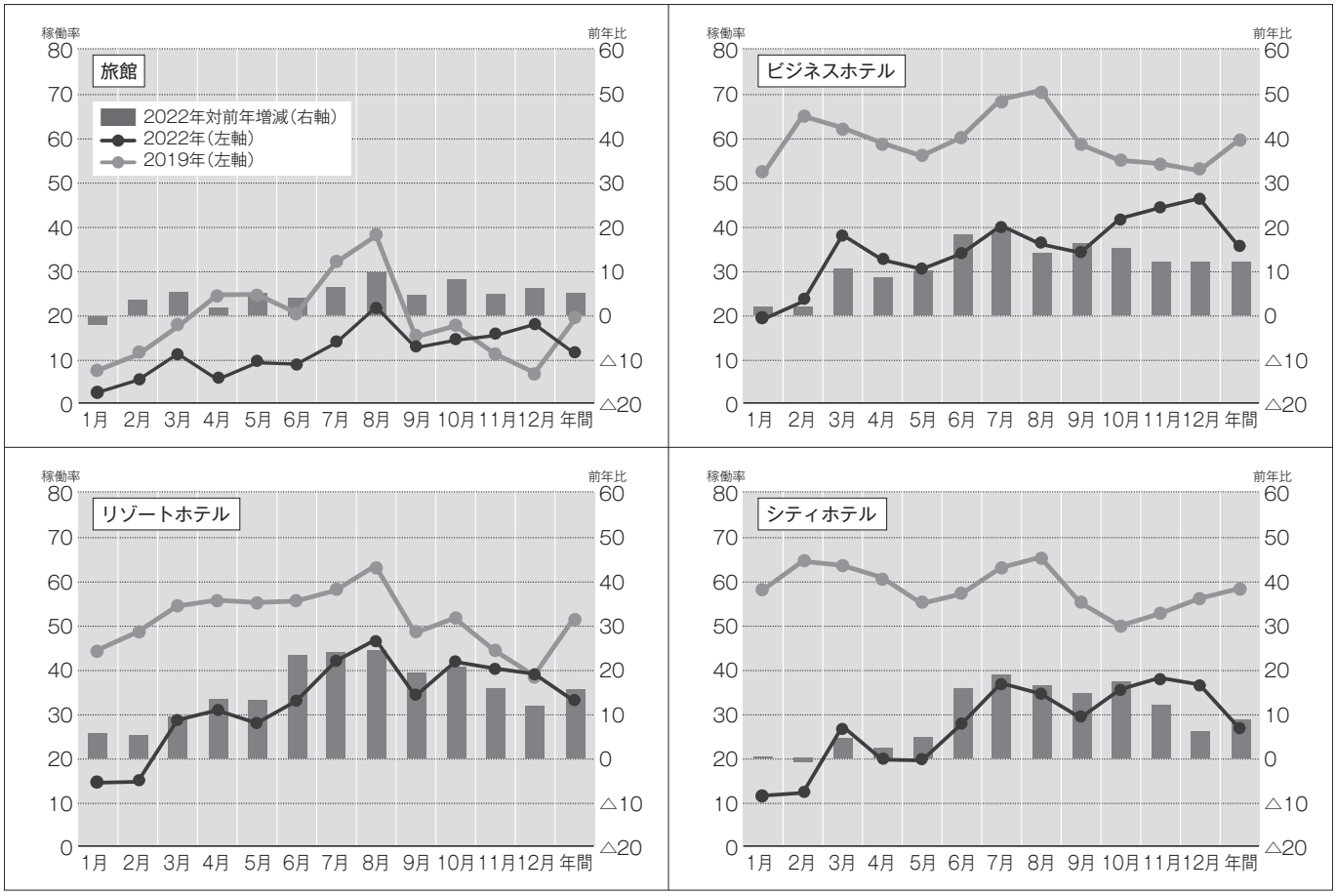
（単位：人）



資料：沖縄県「観光要覧」をもとに（公財）日本交通公社作成

図Ⅳ-8-8　沖縄県内の宿泊施設タイプ別―月別定員稼働率（2019年、2022年、2022年対前年増減）

（単位：%）



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成